

妙高連峰の麓に一面に広がる農地。あぜ道の脇には水が豊かに流れ、サギが悠々と水田の間を飛んでいく。農業と自然が共存する新潟の原風景ともいえる環境のもとで、農業の新しいビジネスモデルの確立を目指し、展開している会社がある。求められる品質の米を効率的に生産し、社員は自分のライフスタイルに合わせて働く。そんな穂海農耕の姿は、これからの日本の農業におけるモデルケースのひとつになっていくはずだ。

稲穂の海のその先へ

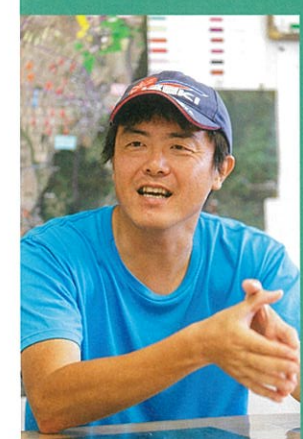
大規模水稲農業経営というビジネスモデルへの挑戦

八時半の始業を前に社員が次々と事務所に集まり、タイムカードを押して席に着く。朝礼が始まり、本日の作業内容の確認が栽培部長から伝達されていく。その様子は一般企業の朝礼と何ら変わらない。朝礼が終わると、この日は草刈りと肥料のチームに分かれ、各持ち場へと出発していった。皆、動きに無駄がなく、表情も引き締まっている。「部活みたいな雰囲気ですよ。元プロスノーボーダーやウィンタースポーツ専門学校の出身者もいて、体育会系の空気はあると思います」。そう話すのは、穂海農耕の丸田社長だ。

農地で、十二品種の米を栽培している。収穫した米は、自社の販売会社である株式会社穂海を通して、大手牛井チェーンや寿司チェーン、商社などへ販売。個人消費者への販売は行っていない。「当社は米作りをしていますが、農家ではなく、業務用原料の供給メーカーという位置づけ。農業を事業としている中小企業で働いているという意識です。業界の中では異質かもしれませんが、米の品質をどこまで追求していく農業もあれば、必要とされる品質の米を大量生産し、市場へ供給していく農業も必要。特に新潟は、その両方が揃ってこそ、これからの水稲農業の前進があると思います」。

なければ、今後の農業において、若い世代の働き手を確保するのは難しいとも話す。農産物を作るからには、安全確保が重要と考え、会社設立の翌年の平成十八年にはJGAPの団体認証を取得。国内で最初の取得だった。「JGAPに沿った運営をしていくことは、消費者への安全・安心の提供につながり、それは同時に会社、社員を守ることもなります。従業員は十二名ですが、結婚したり子どもがいたりする社員もいるので、家族を含めると五十人くらいの生活を支える責任があります。生産物の品質の確保だけでなく、会社運営のリスクマネジメントとしてもJGAPは重要だと思えますね」。

JGAP (ジェイギャップ)
日本GAP協会 (Japan Good Agricultural Practice) による、農場やJA等の生産者団体が活用する農場・団体管理の基準であり、認証制度。農林水産省が導入を推奨する農業生産工程管理手法のひとつです



有限会社
穂海農耕
上越市板倉区田屋104番地2
代表取締役
まるた ひろし
丸田 洋 さん



「穂海(ほうみ)」の社名は社長の造語。一面の田んぼに稲穂が揺れる様子が海の波のようだと感じたこと、内陸なのに「沖」の文字が入った地名が地域にあったことなどがヒントに。読みには「芳味」の意味も込める



社員の神尾義明さんは元プロスノーボーダー。冬はインストラクターを務めている。「社員として就職できたことで、家族にも安心してもらえました」と話す



朝礼の様子



就農イベントで社員を募集。現在、社員の平均年齢は32歳という若さだ。上越出身者は社長を含めて2人だけで、東京、大阪、長野、山形など、ほとんどが県外出身者。入社時点では全員が農業未経験者だという

地域の土地を活かし、市場のニーズにしっかり応え、なおかつ働く人の人生を豊かにしていく。そんな同社の経営方針は、これからの日本の農業に必要な、新たなスタイルを提案してくれている。

また、板倉区の地域とは、程よい距離感のもとで良い関係性が生まれしてきた。「この地域の出身ではない僕たちは、ここで農業という事業をやらせていただいているという気持ち。地域も、土地を貸してくださっている地主さんも僕らにとっては大切なお客様です。恩返しできるように田んぼを作っていきたいと思えます」。

同社のユニークなところは、「自己研鑽休職制度」を設けている点だ。制度を利用して、スキーやスノーボードの競技をしたり、スクールのインストラクターをやる人もいる。その間、社会保険などの福利厚生も会社がサポートしている。「日本が冬の時期、南半球は夏なので、サーフィンをしたという人もいいかもしれません。会社員として働くことで人生設計ができるし、その上で好きなこともできる。ワークライフバランスを取るのに、実は農業は向いていると思います。会社にとって、やはり人が一番大事なので、自分らしい働き方を求める若者にアピールして、良い人材を確保していきたいですね」。

●有限会社 穂海農耕
〒944-0105
上越市板倉区田屋104番地2
TEL 0255-78-5710
FAX 0255-78-5720



オフィーズンの休業制度で人生を豊かに